

沿道の声援と交通規制に協力を

5月27日号砲！「越前大野名水マラソン」

市内をはじめ、県内外から2000人を超えるランナーが参加する本市最大のスポーツイベント「越前大野名水マラソン」。

今年は、沿道での給水やスポンジ配布、太鼓などを使用した応援のほか、初めて「彩り～いろどり～運動」を展開。ランナーに対するもてなしの心を、花や看板などで表現します。

参加者の約6割を市外からの来訪者が占め、大野市をPRする絶好の機会です。マラソン当日の沿道での声援と交通規制に協力をお願いします。

問 教育委員会スポーツ課 (☎66・1111内線531)



教育のページ

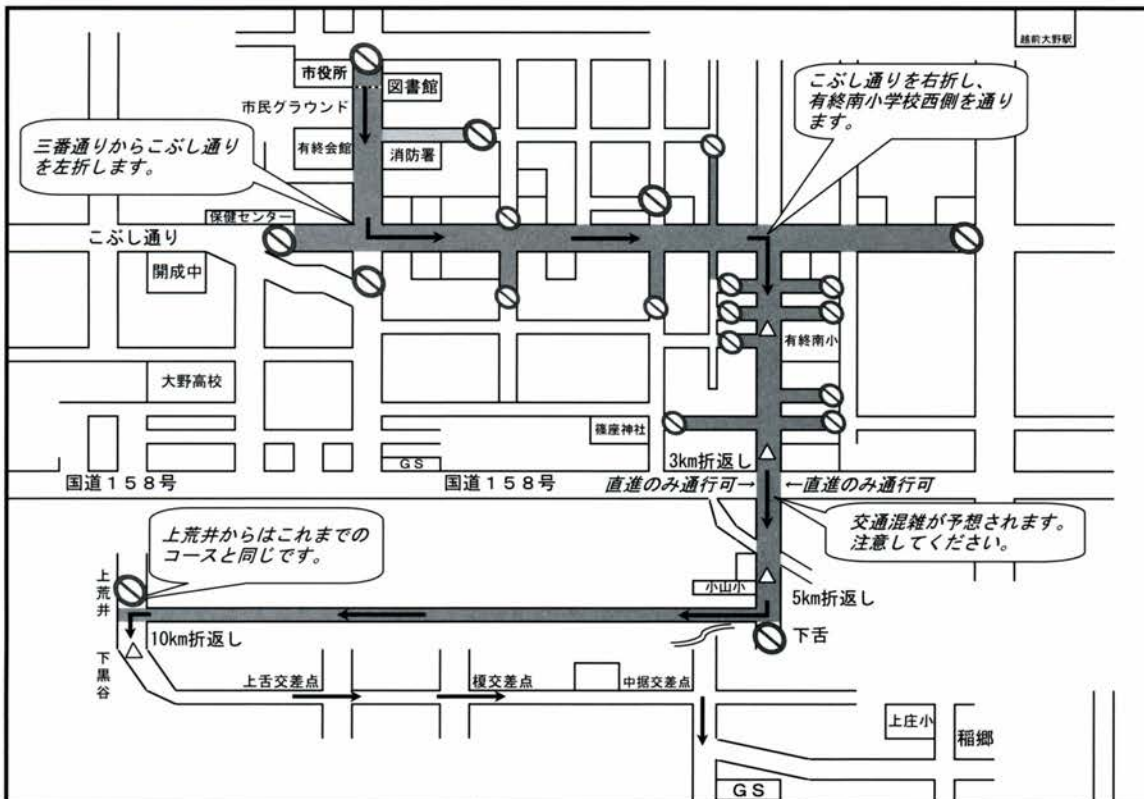


今年から 彩り～いろどり～運動

ランナーに対する応援やもてなしの心を表現するため、今年から実施するこの運動に協力いただけるコース沿線区は次の通りです。なお、次年度以降は広く市民の皆さんの協力を得ながら、全市的な盛り上がりにつなげていきたいと考えています。(順不同)

- ①コースにプランター設置 右近次郎区、千歳区、上舌区、下舌下二区、上荒井区
- ②給水・スポンジポイントでの業務協力 右近次郎区、上舌区、深井区
- ③応援看板等の設置 右近次郎区

マラソン当日の交通規制案内図 (規制時間 午前8時から正午まで)



学校教育の話題から文化、スポーツ、生涯学習まで
市内の教育情報をまとめて紹介します。
大野市教育委員会 ☎0779・66・1111

教育方針が決まりました

めいりん拠点に生涯学習も

今年度の大野市教育方針が決まりました。教育方針は、市の最上位計画である「第四次大野市総合計画」で定めるまちづくりの基本目標の一つ「思いやりと豊かな心を育むまち」の実現に向け、教育委員会が年度ごとに定めているものです。市全体の教育の方針として、公民館での活動や学校で定める教育計画の基本となります。

境の整備に努めます。

2 学校教育の充実

大野市の自然・歴史・文化を生かした教育を実現し、将来に夢を持つことができる学校づくりを進めます。

一人ひとりの多様性を尊重するとともに、集団の中でお互いに高めあう学校づくりを進め、学力の向上を図ります。学ぶ側の児童・生徒や保護者の視点に立って、地域に開かれた特色ある学校づくりを進めます。

学べる生涯学習社会の実現を図ります。

市民の要望や地域の要請に応えた社会教育を推進し、社会教育関係団体の育成に努めます。

各家庭の自主性を尊重しながら、必要な学習の機会や情報を提供して家庭教育を支援するための事業を進めます。

4 文化の振興

伝統文化の継承と芸術文化の振興を図ります。自主的な活動を支援することにより芸術文化に接する機会を提供し、市民の豊かな情操を育てます。

歴史に学ぶ機会を提供するとともに、歴史的遺産の保存・調査をし、次世代へ継承するように努めます。

5 スポーツの振興

子供から高齢者に至るまで、多くの市民がスポーツに

興味・関心を持ち、継続してスポーツに親しみ、心身ともに健康な生活を送ることができ生涯スポーツ社会の実現を目指します。

総合型地域スポーツクラブ「みんなスポクラブ」を育成するとともに、各種スポーツ関係団体との連携を密にした事業を展開してスポーツ環境の整備に努めます。

指定管理者と連携して、施設の適切な管理運営、市民の要望に即応した効率的な利用促進に努めます。

問 教育委員会教育総務課
☎ 66・1111内線511

今年度の特徴

毎年見直しを行っている教育方針。今年度の特徴として

①学校教育では、市の財産である自然などを生かした教育の実現②社会教育では、学びの里「めいりん」を拠点とする生涯学習社会の実現③文化振興では、郷土に残された歴史的遺産の次世代への継承などが挙げられます。

次の五項目を柱として、人

権を尊重し、生きる力や創造力を育む教育力の向上を目指します。

1 教育力の向上

核家族化や少子高齢化などの急激な社会の変化に対応するため、社会全体の教育力の向上を目指します。

家庭・学校・地域におけるそれぞれの教育機能を見直すとともに、その相互の連携を密にして補完を図って教育環

3 社会教育の充実

生命を尊び、自然を愛し、豊かな人間性や人権を尊重する心を育むことを目指し、地域の担い手となる人づくりに努めます。

学びの里「めいりん」を拠点として、各地区の公民館と連携しながら、高度化、多様化する学習要望に応じて、いつでも・どこでも・なんでも





市民のページ

体験通し「食育」に二役

農業体験などを通して、少しでも「食育」に関心を持ってもらおうと活動しているのが「さわやか倶楽部」です。現在、土本けい子さん、塚田澄子さん、林敬子さん、前田啓子さんの主婦四人が和気あいあいの雰囲気の中、花や農作物の栽培・管理、体験活動での指導などを行っています。

平成六年の夏ごろ、代表の土本さんが農業者の集まりに参加し刺激を受け、それまで自宅で取り組んでいた農業を発展させたいと思い、メンバーに相談。春のイチゴ、秋のサトイモのほか、農閑期にできることとして夏花の栽培をしようと話が進み、翌年から本格的に活動を始めました。

「雨の影響を受けてベニバナを大量廃棄したところ、お客さんからドライフラワーにできると聞き、取り組むようになりました」と塚田さん。

農業体験では庄林にある「花つみ園」を拠点に、イチゴ摘み取りやトウモロコシ収穫などを行っています。また昨年度から、市の食育体験事業と連携して「大豆栽培・みそ加工体験会」を実施。種まきからこうじの世話まで、メンバーが指導者を務めました。林さんは「参加してくれた方に自分で作る楽しさや喜びを経験してもらえて良かった」と話してくれました。



「みそ加工体験会」の1コマ。参加者からは「自分で作ったみそに名前を付けてみては？」などの話も出たとのこと。

ドライフラワーのほか、リース作りにも取り組むメンバーは数年前から保育園や幼稚園、高齢者サロンなどに出掛けて積極的に活動を行っています。「正月飾りを教えに行った時、男性の方がすごくこだわったものを作ろうと挑戦

していました。年齢などに応じて気軽に取り組みむこともできますよ」と前田さん。

「何か一つするにも、メンバーで相談し合って行動します。十年先に何ができるか元気でいる今のうちに個々で考え、このメンバーで活動を続けていければ」と話す土本さ



いつも笑いの絶えない「さわやか倶楽部」のメンバー

んは、このグループを自分の居場所と位置付けています。さらに「自分で作った安全なもの家族に食べさせたいと思う方はぜひいろんな体験をしてほしいですね」とも。

イチゴ摘み取りなど、各種体験してみたい方は花つみ園 (☎65・1313) まで。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、
情報広報課まで ☎66・1111



中井 恭子さん (31歳・橋爪)

小学校教諭の中井さんは、青年海外協力隊の一員として約2年間、南米ボリビアで教育指導を実施し、3月20日に帰国しました。現地での様子や今後の抱負などを聞きました。

—帰国してまず何をしましたか

日本には平成17年7月に出発して以来の帰国だったので、まず築地に行ってお寿司を食べました。現地ではシャワーばかりだったので、お風呂にも入りましたね。

—現地での活動を教えてください

日本の学年で小学1から5年生に当たる子供約120人が楽しく算数を学べるよう、教材



の紹介や授業の手伝いをしました。授業のやり方は日本と異なり、先生が一方向的に話す形式だったので、算数をゲーム感覚で学んでもらおうと「算数オリンピック」を開催するなど工夫しました。そのほか休日には、音楽学校に通ったり、無形の世界遺産に登録されているオルコのカーニバルに参加したりしながら、現地の人たちと交流しました。今考えると、夢の中の別世界にいるようでしたね。

—在任中、学用品などの物資が不足していると支援要請しましたね

現地では物が全体的に少ないため、必要な学用品も不足していました。県を通じて支援物資の送付を要請したところ、鉛筆や消しゴム、ノートはもちろん、サッカーボールや縄跳びなどの遊具を含め約2万5000点もの物資が届きました。早速子供たちに配ったら、大変喜んでくれましたね。日本語の絵本などは日本人が多く住む地区に配りました。

—今後の抱負を聞かせてください

言葉で示すのはなかなか難しいですが、現地で体験したいろんなことを今後の教育現場で生かしていけたらと思っています。教え子が成長した様子を見に、またボリビアへ行きたいと思っています。

南米ボリビアで教育指導 教え子の成長楽しみ

新着図書

【一般小説】

やがての蝨 (澤田ふじ子) 回
転木馬 (柴田よしき) 初雪の
日 (築山桂) 年に一度、の二
人 (永井するみ) 鬼しくれ (花
家圭太郎)
【ノンフィクション】
不都合な果実 (アル・ゴア)
娘に語る人種差別 (タハール
・ベン・ジェローン) 唱歌・
童謡ものがたり (読売新聞文
化部) わかるDVD (御池鮎)

樹) 夢への始動 (鶴時靖夫)
【児童図書】
迷子の天使 (石井桃子) 天と
地の守人 第二部・第三部
(上橋菜穂子) なまえをみて
ちようだい (あまんきみこ)
【絵本】
うさぎのくにへ (ジビュレ・
フォン・オルファース) どん
んこそうべえ (たじまゆきひ
こ) ぶかぶかティッチ (パッ
ト・ハッチンス) みんなおな
じでも みんなちがう (奥
井一満)



図書館



読書のススメ

『方言は 気持ちを伝える』

真田信治 著
岩波書店 刊

若者が使う方言について中高生向けに書かれた本です。著者は、方言やカタカナ外来語など、日本語の多様性を研究している大学の先生です。

最近の若者は自分の生まれ育った地域の方言だけでなく、各地の方言を混ぜて話したり、携帯のメールで使ったりしている実例を多く挙げて解説しています。今、若者が方言をどう捉え、積極的に使っているのかが分かる興味深い内容です。

消防訓練所が完成

消防署北側に建設していた消防訓練所が完成し、「市の大火記念日」である4月8日に披露しました。鉄筋5階建ての建物で面積約2213平方メートル、総事業費は1億1500万円です。今後、消防隊員の救助レベル向上のほか、自主防災組織による訓練などに利用します。

※丸囲みの写真は、消防団第3分団第2部（下丁区）に配備された小型動力ポンプ付積載車



訓練を披露する消防隊員



来場者にインタビューする井上さん(中央)

食生活見直しへ講演

食育活動の取り組みや生活習慣病予防に関心を持ってもらおうと3月25日、学びの里「めいりん」で講演会を開催しました。講師を務めた日本医療栄養センター所長の井上正子さんは約200人を前に、食生活を見直す必要性を訴えていました。

美濃街道を学ぶ

当市と岐阜県郡上市をつなぐ「美濃街道」。その街道ゆかりの史跡や文化財を巡るイベントを3月25日に行いました。参加者は郷土史家の小倉長良さんから説明を受けながら、向小駄良番所などを見て回りました。



みんスポで世代間交流

総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」と市民の合同レクリエーションが3月17日、学びの里「めいりん」で行われました。生涯スポーツの推進や世代間交流を図るため同クラブが毎年開催しているもので、約200人が参加。ソフトバレーを楽しんだり、みんスポクラブのメニュー体験を行ったりしました。



話題のひろば



恐竜戻ったよ

道の駅九頭竜の親子恐竜モニュメントが3月22日、岐阜県のメンテナンス業者から戻ってきました。暖冬の影響から昨年より約1カ月早い“帰宅”に、近くの和泉保育園の園児は大はしゃぎしていました。



春訪れ姿現す

日差しに笑み

昨年より約2週間早い3月27日、麻那姫像の雪囲い外しが行われ、黄金に輝く像が姿を現しました。



雑魚からイトヨ守ろう

中野清水にすむイトヨを雑魚から守ろうと3月18日、「中野清水を守る会」メンバー20人が参加して捕獲作業を行いました。近くの木瓜川から侵入してきたウグイなど約200匹を捕獲。作業後には元気に泳ぐイトヨの姿が見られました。

あれっ？木製のふた

大野木工団地協同組合が県産の杉材で流雪溝のふたを作り、弥生公園横の市道に設置しました。市では、ふたの耐久性などを定期的に点検し、今後の活用を検討していきます。





笑顔！で「いただきます」②

サケの黄金焼き



材料（一人分）
 ※分量は給食の献立に基づき表示
 ・サケ 50g[㊦]
 ・クリームコーン 8g[㊦]
 ・マヨネーズ 8g[㊦]
 ・小麦粉 2.5g[㊦]

子供たちの健康を支えている給食献立。今月は「サケの黄金焼き」を紹介します。

給食からもう一品

作ってみよう

- ①サケは塩、コショウをかけ、アルミカップに入れる
- ②クリームコーン、マヨネーズ、小麦粉を混ぜる
- ③サケの上に②をかけて、オーブンで焼く
 ※家庭ではサケに塩、コショウをかけ、小麦粉を付けてまずフライパンで焼き、その後アルミカップに入れてクリームコーン、マヨネーズをかけてオーブンで焼いても良い

達人のワンポイントアドバイス

塩、コショウだけでサケを焼くとパサパサしてしまいます。クリームコーンとマヨネーズをかけて子供好みの工夫を。軽く焦げ目が付く程度に焼いてください。
 （学校調理師 泉博子さん）



市民のうごき

平成19年4月1日現在

世帯数	12,269世帯 (13世帯)
人口	39,070人 (-110人)
〈男〉	18,660人 (-63人)
〈女〉	20,410人 (-47人)

◆3月中の内訳

転入	124人	出生	12人
転出	210人	死亡	36人

当時の大野町役場はこの日を大火記念日と定め、防火に立ち上がりました。消防訓練所の完成披露を兼ね、この記念日に行われた訓練には約二百人の市民が見学に訪れました。塀によじ登り訓練を見ていた子供たちは、消防隊員のきびきびした姿に「かっこいい」と言いながら見入っていました（林）



編集後記

明治二十一年四月八日、銭湯から出火した火事は、死者三人、被災者四千人を超える被害を出しました。



「森の樹立が風に揺れている…おゝ青風の日（白鳥省吾・詩）」もなべてが萌青（浅緑）から藍青（濃緑）への美妙な移ろいの時季。まこと皐月は美しい▼さてと、美しいといえば、政府の「美しい国づくり」構想は抽象的でいまだ半透明なのだが、その一つ「美しい森林づくり」は、はっきり分かる具体策だ。植樹など保護事業にエコ・グリーン運動や林産物促進を図る▼当市でも当初予算での施策「ブナの森環境保全林整備」や「みんなで森づくり」など実施する。また先ごろ五団体で「越前おおの森づくりネットワーク」を設立といったプラス思考の積極的ケースは喜ばしい▼森林環境保全とは自然保護のみならず温暖化防止へもつながることは周知のこと。例えば植樹・植生など、その当たり前の行為（生活原理）がなごびりにされてきたのか。これまで、なぜ▼連想は「山林に自由存す：いかなればわれ山林を見すてし（国木田濁歩・詩）」へと。ただ肝に銘ずべきは、植樹とは目先主義の一過性や功利化であってはいけない、要はあくまでも次世代、子孫のためのものだ▼詩人キルマ（米国）は「詩は私の様な馬鹿者が作るが、樹を作るのは神様ばかり（樹）」とうたう。折しもみどりの季節はまこと美しい（武藤）

発行 福井県大野市

編集 情報広報課 広報広聴係 ☎0779・66・1111